

令和7年度 事業計画

公益社団法人 Knots

当法人の活動目的は、人も含めた全ての動物達を幸せにすることである。そのためには、人も動物もより良い形で共生出来る社会の構築が必要となる。そこで、当法人は人と動物のより良い共生を進めるための啓発、教育、研究事業、そして目的を達成する為に必要なあらゆる事業を国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関等に幅広く連携を求めて実施していく。

令和3年度には新たに「SDGs 推進事業—One World, One Life—」が公益事業として認定された。令和7年度は、阪神・淡路大震災30年とKnots設立25周年の年である。阪神・淡路大震災の経験から始まった当法人の成り立ちと歩みに、改めて向き合い、「One World, One Life」のテーマに基づき、「ひとつひとつの命の幸せに寄り添う社会」に向け、本年も、真摯に事業に取り組んでいく所存である。この概念は、誰一人取り残さない社会を目指す国連のSDGsの17の目標を達成するため、日本でも政府が“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する方針を掲げているが、これと同じ世界を目指すものである。ステークホルダーとして、SDGsの推進にも貢献していきたい。

1. 啓発事業

人と動物のよりよい共生を進めるための知識の普及啓発や情報交流、情報提供を行うために、SDGs推進をはじめ、国際会議、シンポジウム、セミナー、展示会、イベント、ドッグスポーツ大会等を幅広く一般の人々を対象に実施するとともに、災害発生時には緊急的に被災者支援を行う。

正確な情報をより的確に提供出来る様、開催にあたっては、国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関に幅広く協力を求め、連携のもとに行う。

また、人と動物のより良い共生に尽力した企業、団体を表彰する機会を設けたり、商品の製造、販売を通して、野生動物の有効活用事業の啓発を行い、人と動物のより良い共生の推進を図る。その他、人と動物のよりよい共生を進めるため、個人、団体、企業、行政等対象に人と動物の共生に係るコンサルティングも必要となるために動物取扱業（展示）が必要となる。

（1）神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議（ICAC KOBE）One World, One Life

阪神・淡路大震災15年を契機に、人も含めた全ての動物の「命」に対する責任について考え、人及び動物が幸せに共生できる社会の構築を目指し、震災で多くを学んだ神戸の街から、情報交流、情報発信を行っていく為に2年に1回実施予定。「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である。」とし、生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に出来ることを幅広く議論する場を提供する。One World, One Life とは「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」という概念であり、各々のいのちに寄り添う社会構築に

向け情報交流、発信を図る。会議の発表内容は後日、日英両文にてウェブサイト上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

昨年度は、阪神・淡路大震災30年となる2025年の開催を目指して検討を行ったが、2025年の開催が困難となったため、引き続き調整・検討を行う。

また、この国際会議の認知度を高めるために、国際会議の動物キャラクターを活用した動物キャラクターグッズ（アイテム）等を活用し会議の周知を図ってきたが、令和5年度より国際会議に特化せずSDGs推進のキャラクターという位置づけにし、現状の事業展開に即した内容に変更した。令和元年度供用開始をしたLINEスタンプもSDGs推進キャラクターとして引き続き活用していく予定である。

（２）りぶ・らぶ・あにまらずシンポジウム

2001年より開催。国内外の人と動物のより良い共生に関わる様々な情報をシンポジウムを通して提供している。参加費は原則無料にし、学生、一般の方などに広く参加を呼びかけている。当日の発表内容は後日、ウェブサイト上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

昨年度は、10年ぶりに神戸ポートピアホテルでの開催が実現し、大きな実績を上げることができた。今年度は、Knots設立25周年記念事業としてのシンポジウムを企画し、開催する予定である。

（３）セミナー、講演会

人と動物が幸せになるために必要な、共生に関わる様々な情報を提供し、より良い共生の推進の一助とする。

シンポジウム同様発表内容については、登壇者の許可を得て、可能な限りウェブサイト上に掲載し、後日無料で閲覧出来るようにする。

（４）ドッグスポーツ大会「りぶ・らぶ・あにまらずフェスティバル」

2001年は、パブリックフォーラムとして開催し、翌2002年より初心者向けドッグスポーツ大会（飼い主さんと愛犬が一緒にフリスビーやアジリティ（障害物競走）、ダンス、カニクロス（愛犬と一緒に走るレース））として、開催。

2009年からは、毎年春に行っていた「Y 2Day with Dogs」とジョイントし、動物に関わる様々な団体のご協力のもと、ドッグスポーツ大会と一緒にいていた補助犬、ワーキングドッグのデモンストラーション、ライブ、神戸市犬譲渡制度のPRなどステージプログラムや展示も同時開催。

2016年からは、六甲山カンツリーハウスとのコラボレーション事業として開催している。飼い主さんと愛犬に一日楽しく過ごして頂きながら、動物と暮らすことの楽しさを実感して頂き、且つ、来場する犬達には、狂犬病の予防接種を条件付けており、啓発にもなっている。飼育マナーの向上や世代間交流の一助とし、人と人、人と動物の幸せな共生社会の構築に寄与するために毎年継続事業として行っている。

また、イベントとして行うことで、様々な事情で飼育が出来ない子ども達にも動物愛護教育の場として、活用されている。特に近年では、ペットと暮らすことの双方の生理学的な好影響も明らかになってきており、高齢者や子ども達への、心理的・教育的影響とも合わせ、人類が長い歴史の中で培っ

てきた生物としての共生関係に基づく、人とペット双方の心身の健康への貢献についても情報共有を図る。

令和元年度より、ドッグスポーツ大会と一緒に行っていた補助犬、ワーキングドッグのデモンストラーション、ライブ、神戸市犬譲渡制度の PR などステージイベントは、公益社団法人神戸市獣医師会、神戸市動物愛護協会、公益社団法人 Knots の 3 団体で構成する実行委員会を設置し、動物愛護フェスティバルを行ってきた。

令和 2 年度をもって神戸市動物愛護協会が活動を終了されることとなり、実行委員会の構成団体等は未定のままであるが、令和 3 年度から令和 5 年度まではコロナ禍の影響もあり開催できなかった。令和 6 年度は、公益社団法人神戸市獣医師会の主催で開催され、当法人もブース出展で参加した。

運動会&ゲーム大会は六甲山カンツリーハウスドッグラン事業と連携した開催とし、人と動物の共生情報発信拠点構築の一助とする。令和 3 年度より六甲山カンツリーハウスドッグラン事業は縮小され、イベントとして行う形式で調整中であったが、開催に至らなかった。

今年度の開催については未定である。

(5) ずっと一緒に居ようプロジェクト

ずっと一緒に居ようプロジェクトは、フェスティバルのメンバーが発起人となり、東日本大震災での飼主さん支援が発端となって始まった。震災での緊急時のみならず、平時においても人と動物が絆を保ち幸せに暮らせるような社会システムを構築するため、その方策を議論研究して提案し、これらの情報を発信、その実現化を支援する。

例えば、2015年の国際会議（ICAC KOBE）では、分科シンポジウムの中の1つとして「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶（家庭）動物の暮らしを地域活性へ」というテーマで数名の方の発表があり、人と伴侶動物が地域で共に幸せな生活ができ、尚且つそれが地域の活性に活かされるような社会システムを構築することができるのか、その可能性について考察した。このシンポジウムの成果は、論文『「伴侶動物との暮らし」を活用した「高齢者が幸せに暮らせる社会システム」の提案』にまとめ、シニア社会学会誌に掲載されており、全文をウェブサイトにて公開、情報を発信し、その実現化を支援している。

この成果を活用し、6. SDGs推進事業—One World, One Life—の「こうべ動物共生センター」管理運営業務の公募型プロポーザルにおいて《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築を令和3年度より企画提案している。受託後は新型コロナウイルスの影響で関係部局との調整が困難であったが、今後は《こうべ動物共生プラットフォーム》構築に向けた調整を行っていく。人と動物の共生に関わる様々な課題の解決を目指し、関連団体や動物取扱業登録事業者、関連事業の事業者、ボランティア等や原則として各地域の中学校区ごとに一つある地域包括支援センターや社会福祉協議会、自治会、病院、学校等とも連携・協働し「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるSDGs視点を持ったあたたかな神戸市」を実現する。なお、上述の論文については、こうべ動物共生センターの視察・見学に来訪される自治体関係者等にも配布している。

また、令和6年1月1日発災の能登半島地震が激甚災害と指定されたことを受け、5. ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業として「ずっと一緒に居ようプロジェクト 令和6年能登半島地震『被災者のペット可物件入居支援金』助成事業」を令和6年1月17日より開始した。同年4月17日には

被災地に足を運び、石川県獣医師会やいしかわ動物愛護センター等の訪問し、『被災者のペット可物件入居支援金』助成事業の支援を必要とする人に情報が届くよう協力を仰いだ。

仮設住宅の建設の遅れ等、被災者にとって困難な状況が続いていることを鑑み、今年度も継続して追加の寄附金を募り、以下の方策を中心に被災者のペット可物件入居支援を実施する。（５．ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業でもある）

- ・ウェブサイトにおいて助成申込状況や追加の寄附金に関する情報を随時更新する。
- ・メールマガジンの配信により、ウェブサイト掲載の支援金助成事業の最新の情報を提供する。
- ・関係するメディアや顧問弁護士等の災害支援の活動を通じて、支援を必要とされる方への情報提供網の拡充を行う。
- ・出店するイベントにおいて、『被災者のペット可物件入居支援金』助成事業の広報を行い、支援を必要とする被災者への情報拡充や追加の寄附金への協力を呼びかける。

（６）りぶ・らぶ・あにまるず賞

人と動物の共生に尽力されている商品や企業活動を高く評価すると共に、感謝の気持ちを伝える。対象期間は１年間、毎年一般の方々の応募により、ノミネートし、選考委員の投票によりグランプリを決定する。近年、人と動物の共生に向けての事業が多様化し、同一の賞の中で判断が難しくなったこと、共生意識の高まりによって敢えての推薦が少なくなったことから、令和２年度をもってこの事業は休止とした。

（７）イベント、ドッグスポーツ大会 六甲山カンツリーハウスわんわんドッグフェスタ運営協力 期間限定のドッグラン、ワンちゃん大運動会、ゲーム大会等の運営協力を行う。

本事業に、沢山の飼い主さん、ワンちゃんにご参加頂くことで、動物と暮らす楽しさ、幸せを実感して頂く。

ひいては、より良い共生推進の一助となる。また、利用者には、狂犬病予防法の遵守を条件付けており、啓発にもなっている。令和３年度より六甲山カンツリーハウスドッグラン事業の縮小により、常設のドッグラン運営ではなく、ワンちゃん大運動会等のイベント開催時のみの運営となったが、新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。

今年度は、今のところ六甲山カンツリーハウス（現GREENIA）でのイベント開催は予定されていないため、実施については未定である。

（８）野生動物有効活用推進事業

近年、日本の各地でシカ、イノシシなどの増えすぎた野生動物による農村部での森林被害、農業被害が深刻化している。そのため、多くの野生動物達が、自然環境や生態系を守るために、有害鳥獣として捕獲されているが、その殆どが活用されないまま産業廃棄物として処理されている（例：兵庫県では、年間２～３万頭のニホンジカが有害捕獲）。兵庫県の令和４年度の農林業被害額は合わせて約１億６千万円となっている（令和５年度以降のデータはまだ公開されていない）。

このような問題に対処し、動物達の「命」を無駄にしないためにも、彼らの肉や骨、皮などを有効に活用していくことが、地域振興や新しい産業の創出の可能性を含め、現在大きな課題となっている。

この有効活用を進めることで、産業が生まれ、雇用機会の創出につながり、ひいては生産者の方々の生活向上の一助となる。また、自然環境や生態系が保全されることにもなる。

当法人では、有効活用推進のために、情報提供や犬用おやつの開発、製造、販売に取り組んでいる。開発、製造には、障害者の方々のみならず、実際に農業被害を受けておられる土地で生活されている主婦グループの方々にも参加して頂いており、新たな産業の創出や地域振興に挑戦している。

添加物等一切加えず、天然由来の原料で製造した、これらのおやつは品質が良く、愛好家も多い。これらの商品を手にとって頂くことで、野生動物のおかれている現状に一般の方々にも目を向けて頂くことにつながる。

また、当法人は、「野生動物研究会」※（事務局：兵庫県森林動物研究センター）の幹事を務めていたが、「野生動物研究会」は、令和7年1月15日をもって活動終了となった。

※野生動物研究会（旧ニホンジカ有効活用研究会）とは、

兵庫県森林動物研究センターと、兵庫県内でシカ肉の有効活用に取り組んでいる企業、団体、個人が研究会を組織し、当時最大の課題であったシカ肉利用促進に向けた情報の収集、共有を図ることにより消費者のニーズにあった供給体制を研究し、シカ肉利用に関する正確な情報発信を行うことにより、需要の拡大を図り、野生動物資源利用を通じた地域振興と人と野生動物のより良い共生社会の構築に資する研究会事業を行なっていたが、シカ肉については、流通に掛かるネットワーク組織も立ち上がった為、野生動物全般に掛かる共生研究へと対象を広げることになった。

今年度は、以下のとおり実施する。（４．障害者の自立支援事業でもある）

<新商品の開発>

- ・犬用おやつをほとんどを製造しているNP0法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援(B型)事業所Patch（パッチ）と共に、鹿肉を活用した高齢犬でも食べられるおやつを開発する。

<イベント出店（出展）での販売>（１．啓発事業（１１）情報提供事業でもある）

対面で販売することで事業のPRを行うだけでなく、飼い主のニーズを聞き取ることができ、新商品開発の糸口となるため、下記の予定以外の参加可能なイベントへの出店（出展）も随時行い、当法人のリーフレットや事業の案内資料（チラシ等）を来場者の方々に配布し、当法人について広く知っていただく機会とする。（販売が可能なイベントについては、犬用おやつの販売も行うため、１．啓発事業（８）野生動物有効活用推進事業、４．障害者の自立支援事業でもある）

ブースにおいては、ディスプレイや来場者への声掛けを工夫したり、犬用おやつの販売数を増やす等して昨年度の1.5倍の売上を目指す。

飼い主の方々や様々な犬達から直接情報収集できる貴重な機会であり、今後の事業に活かせる方策を工夫する。

- ・国際盲導犬デー（主催：社会福祉法人兵庫盲導犬協会）

令和7年4月29日（火・祝）湊川公園

- ・動物感謝デー（主催：公益社団法人日本獣医師会）

令和7年11月15日（土）上野恩賜公園

- ・こうべ福祉健康フェア（主催：神戸市／公益財団法人こうべ市民福祉振興協会／社会福祉法人神戸市社会福祉協議会／ふれあいのまちＫＯＢＥ・愛の輪運動推進委員会／神戸市教育委員会／一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団）

開催日未定

（９）各種コンサルティング、相談業務の実施

動物と安全に楽しく暮らすための相談対応、ペット可集合住宅での管理組合、管理会社のサポート、野生動物との関わり方等人と動物の共生に係る様々な相談に対応。また、人も動物も快適な住まいや旅行等の商品開発の為にコンサルティングを実施。人と動物のより良い共生とSDGsを推進し、人も動物も幸せにする為に、必要な相談及びコンサルティング業務を行う。

これまでの事業経験を活かした専門的なアドバイスを行い、コンサルティング契約を結ぶ等の事業化を目指す。

今年度は以下のとおり実施する。

- ・地域の活性化や犬連れ集客等に関するコンサルティング

令和6年度に開催した当法人主催の「人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム2024『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー』」の成果を活用し、関連する事業等を提案する。

一般財団法人神戸観光局との連携を構築する。

- ・全国の動物愛護（管理）センターの主に教育に関する事業運営のコンサルティング

これまでに奈良県「いのちの教育」研修会等でプログラム開発に関心を示した自治体などにアプローチを行う。

その他、新規に依頼のあるコンサルティングに対応する。

（１０）Knots MODEL CLUB

テレビや雑誌などから紹介（出演）の問い合わせが多くあったことから、これを市町村への犬の登録、狂犬病予防接種など病気予防と健康管理、しつけなどを条件として本法人で登録し、ウェブサイトにて無料で公開することで飼主さん自慢の犬が、モデル的に伴侶動物として大切にされている姿を見て頂き、広く一般の方々にも、人と動物の幸せな共生を見て頂くことで啓発する。

SNSの普及に伴い新規登録が減少していることから、新規登録については休止する。

（１１）情報提供事業

主にウェブサイト、メールマガジン等を通して、幅広く専門家や一般の方々に人と動物の共生及びSDGsに関わる様々な情報を提供していく。

なお、情報提供の機会ともなるイベントへの出店（出展）は、当法人の事業紹介だけでなく、犬用おやつの販売と併せて自立支援事業について広く知っていただく場となる。（４．障害者の自立支援事業でもある。）

今年度は以下のとおり実施する。

<ウェブサイト>

公開可能な動画を活用しながら常に最新の情報が掲載されるように管理し、アクセス数、ページビューを確認し、より波及性の高いウェブサイト運営を行う。

国際的な情報発信のため、ウェブサイトのAI翻訳機能などを活用している。

- ・トップページ上部のバナー表示箇所（５～６枚程度のバナーを順番に入れ替えて表示）においては、

多くの方の協力が必要となる助成事業や、集客を伴うシンポジウムの案内等が最初に表示されるように設定し、表示の順番や内容については順次見直して更新する。

- ・各事業の報告は、トップページの「事業報告（ピックアップ）」にも掲載し、更新した情報が一目でわかるようにする。
- ・トップページ「こうべ動物共生センター関連」は、当法人が神戸市より管理運営業務を受託している「こうべ動物共生センター」のウェブサイトの更新と連動させ、事業の参加者募集や報告等の最新の情報を掲載する他、相乗効果を高める工夫をする。
- ・メールマガジンとの効果的連携を創出する。
- ・その他、人と動物のより良い共生及びSDGsを進めるために役立つ情報を収集し、ウェブサイトに掲載する。

<メールマガジン> 目標発行数：24回／年

人と動物の共生及びSDGs推進に関わる情報を毎月1回以上配信する

- ・ウェブサイトの更新情報等当法人の実施する事業の最新情報を提供するだけでなく、効果的な活用戦略を工夫する。
- ・主催事業である奈良県「いのちの教育」研修会の参加者募集や、4. 障害者の自立支援事業におけるキャンペーンの案内等、必要に応じて臨時号を配信する。
- ・関係者の方々からの情報提供を行い、連携を強化、信頼関係を構築する。
- ・他団体の開催事業で後援、協賛等の協力を行ったものは「他団体のお知らせ」の中で明記し、参加した場合には参加報告を作成してウェブサイトに掲載する。

<産業情報新聞社「ペット&Life」に「PIIA Knots リレー・エッセイ」記事連載>

「人と（人以外の）動物の幸せな共生」をテーマに、識者の方々にエッセイをご寄稿いただく。

Knots設立25周年記念事業としてこれまでのエッセイをまとめて出版できるよう、産業情報新聞社に相談し、計画を進める。

<イベント出店（出展）>

下記の予定以外の参加可能なイベントへの出店（出展）も随時行い、当法人のリーフレットや事業の案内資料（チラシ等）を来場者の方々に配布し、当法人の事業について広く知っていただく機会とし、寄附のお願いや犬用おやつの販売増を図る。（販売が可能なイベントについては、犬用おやつの販売も行うため、1. 啓発事業（8）野生動物有効活用推進事業、4. 障害者の自立支援事業でもある）

ブースにおいては、ディスプレイや来場者への声掛けを工夫したり、犬用おやつの販売数を増やす等して昨年度の1.5倍の売上を目指す。

飼い主の方々や様々な犬達から直接情報収集できる貴重な機会であり、今後の事業に活かせる方策を工夫する。

- ・国際盲導犬デー（主催：社会福祉法人兵庫盲導犬協会）
令和7年4月29日（月・祝）湊川公園
- ・動物感謝デー（主催：公益社団法人日本獣医師会）
令和7年11月15日（土）上野恩賜公園
- ・こうべ福祉健康フェア（主催：神戸市／公益財団法人こうべ市民福祉振興協会／社会福祉法人神戸市社会福祉協議会／ふれあいのまちKOB E・愛の輪運動推進委員会／神戸市教育委員会／一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団）
開催日未定

2. 教育事業

人と動物のより良い共生及びSDGsを進めるために役立つ情報を、主にインターネットを通して幅広く提供。実施した会議やシンポジウム、講演会等の貴重な内容については、可能な限りウェブサイト上で、日英両文にて公開し、当日会場に来られなかった全世界の不特定多数を対象に教育の機会を設ける。

また、人と動物のより良い共生及びSDGsを推進する為、一般市民はもとより、関わる専門家、学生等にとっても有益な知識、情報を提供するべく国際会議、セミナー、研修会イベント等を実施、その他学校の教育事業に協力する等、人材の育成、知識の向上、児童及び青少年の健全育成に貢献する。この事業の一環として動物を伴って教育事業を行うこともあることから、動物取扱業（展示）が必要となる。

（１）情報提供による教育機会の提供

人と動物のより良い共生及びSDGs推進の為に、開催する国際会議、シンポジウム、セミナー等の内容は全て後日、記録集（可能なものについては、日英両文にて製作）としてウェブサイト上で無料公開し、会場に来られなかった不特定多数の方々へ教育の機会を提供する。機会があれば随時、セミナー、講演会を実施し、情報と教育の機会を提供する。

また海外の文献を翻訳し、人と動物の共生に関わる情報を提供していく。

（１． 啓発事業（１１）情報提供事業でもある）

今年度は以下のとおり実施する。

ウェブサイトにおいて常に最新の情報が掲載されるように管理を行う等して教育機会の提供強化を図る。

- ・トップページ上部のバナー表示箇所（５～６枚程度 of バナーを順番に入れ替えて表示）においては、セミナーやシンポジウムの案内等が上位に表示されるように設定して教育の機会があることを情報発信し、参加者募集を促す。
- ・各事業の報告は、トップページの「事業報告（ピックアップ）」にも掲載し、更新した情報が一目でわかるようにし、情報と教育の機会を提供する。
- ・トップページ「こうべ動物共生センター関連」は、当法人が神戸市より管理運営業務を受託している「こうべ動物共生センター」のウェブサイトの更新と連動させ、事業の参加者募集や報告等の最新の情報を掲載する等して、情報と教育の機会を提供する。
- ・昨年度に開催した「人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム2024『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会ーそれを可能にする環境整備ー』（令和6年10月27日（日）神戸ポートピアホテルにて開催）の抄録、開催報告書、当日の各プログラム動画、記録集等の記録をウェブサイト上に公開、その成果の波及を図る。
- ・こうべ動物共生センターで実施しているプログラム「わんちゃん読書会」では、アメリカの図書館でインターマウンテンセラピーアニマルズにより始まった活動「R. E. A. D. プログラム」に基づいて、子どもによる犬への読み聞かせを行っている。同団体の当時のディレクターに当法人主催のシンポジウム（2005年）にご登壇いただいたご縁から、昨年度「R. E. A. D. プログラム」のマニュアルを提供してもらうことができた。翻訳したマニュアルを事業実施に活用する。

- ・その他、人と動物のより良い共生及びSDGsを進めるために役立つ情報を収集し、ウェブサイトに掲載する。

（２）講師の派遣

専門学校、セミナー等への講師派遣を随時実施、人材育成、知識の向上及び青少年の健全育成に貢献する。

今年度の予定は未定であるが、今後の他団体や企業からの講師派遣依頼に随時対応する。

（３）奈良県「いのちの教育」連携協定事業

平成24年度（2012年度）に奈良県と締結した『奈良県いのちの教育展開事業』に於ける連携協定に基づき、奈良県「いのちの教育」プログラムの普及を奈良県と共に推進する。動物を通じた教育は、いのちを大切に、共感力を育む教育として文部科学省の指導要領にも盛り込まれており、アジア型ヒューメイン・エデュケーション構築に取り組み、人も動物もお互いを思いやれる未来へ寄与するものである。この事業は、主に、自治体等の教育に関連する職員等に対してこのプログラムを軸とした研修会、講演会等を実施する。これらの取組みの成果や研究発表はウェブサイトでも多くの方に無料で公開することで教育の機会を提供、また、このウェブサイト閲覧した方への啓発にもなる。この事業を通じて、いのちに対する責任が生まれ、思いやりの心も養われ、豊かな人間性を涵養する。

また、当法人代表理事は、「いのちの教育」を推進するために設置されている奈良県「いのちの教育」研究協議会（会長：国立大学法人奈良女子大学 天ヶ瀬正博先生）の委員を務めることとなっており、年に2回開催される研究協議会に出席し、奈良県「いのちの教育」プログラムのブラッシュアップを図っている。

今年度は以下のとおり実施する。

- ・奈良県「いのちの教育」研究協議会への出席（年に2回開催）
- ・奈良県「いのちの教育」研修会の開催（奈良県うだ・アニマルパーク振興室との共催）
- ・6. SDGs推進事業—One World, One Life—の「こうべ動物共生センター」管理運営業務における「いのちの教育」プログラムの実施
- ・全国の動物愛護（管理）センターなど自治体等からの依頼に応じて「いのちの教育」プログラムを実施する。

さらに、奈良県「いのちの教育」研究協議会から関連して、令和4年度から実施されている奈良県「いのちの作文コンクール」（主催：奈良県教育委員会）において富永代表理事が令和5年度まで審査委員を務めた。

※奈良県「いのちの作文コンクール」とは

うだ・アニマルパークにおける動物との触れ合いなどを生かした「いのち」に関する学習を核に、教育活動全体で生命を尊重する心を育て、子どもたちに「いのち」の大切さを考えさせることは大切であり、子どもたちが考えた「いのち」の大切さについて表現する機会を設けることで、子どもたちの「いのち」を尊重しようとする態度を育むことを目的としたコンクールである。

今年度は第4回目が実施される予定である。

（４）教育ツール共有事業

現在、全国の動物愛護（管理）センターなどでは、「いのちの大切さ」や「適正飼養」「殺処分減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の必要性に対する認識が高まっている。

こうした現状を踏まえ、これまでに各地の動物愛護（管理）センターと共に企画開発を行い、すでに導入されて教育現場で実績のある動物愛護教育およびヒューメイン・エデュケーションに関するツール類を共有する事業を展開する。また、使用実績や実施レポートなどの情報を報告し、日本におけるヒューメイン・エデュケーションの向上と各自治体間の連携の促進を図り、少しでも多くの自治体で人と動物のより良い共生の推進を図ることで、心豊かな社会の実現を目指す。

例えば、「いのちの教育」プログラムのツールは大型張り子版と黒板での実施ができる簡易版があるが、希望する自治体があれば奈良県と本法人の許可を得て、それぞれの自治体の特性に合わせた改良を行って制作・使用することが可能である。そうした方法を取ることで、教育プログラムの企画開発のための余力がない自治体でも、すでに実績のあるツールを導入することができる。「いのちの大切さ」や「適正飼養」「殺処分減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の普及啓発にとって非常に有益な手段である。

令和5年度は、奈良県うだ・アニマルパーク振興室より、奈良県「いのちの教育」プログラムで使用する教材の修理等の依頼があり対応した他、小椋理事兼企画教育部長が制作を担当した明石市の啓発チラシが明石市民に配布されて活用されている。

今年度は以下のとおり実施する。

- ・「いのちの教育」教材費用案内をまとめ、当法人に寄せられる問い合わせに応じて必要な教材の提案や、制作・提供を行う。
- ・（３）奈良県「いのちの教育」連携協定事業である奈良県「いのちの教育」研修会等の全国の自治体関係者が集まる場においても参加者からニーズを聞き取り、必要な教材の提案や、制作・提供を行う。

３．研究事業

人と動物のより良い共生及びSDGsを推進する為に必要な情報収集と研究を行い、その情報を幅広く提供することで、啓発、教育事業を行う。

また、企業、行政、団体等からの依頼により、人と動物の共生に関わる調査研究等実施する。啓発、教育、研究いずれの事業を実施する場合においても、国内外の関係団体、個人、企業、行政機関の連携、協力は不可欠である。

今年度は継続して「神戸市人と猫との共生推進協議会」へ参画（当法人は監事を務めている）し、以下のとおり実施する。

- ・年に3回開催される定例会議への出席
- ・「神戸市人と猫との共生推進協議会」の活動についての情報発信

当法人の受託事業である「こうべ動物共生センター管理運営業務」（６．SDGs推進事業—One World, One Life—）において、こうべ動物共生センター内に「神戸市人と猫との共生に関する条例」「神

戸市人と猫との共生推進協議会」の紹介パネルの展示、紹介ポスターの掲示を行う。

- ・「神戸市人と猫との共生推進協議会」主催の保護猫譲渡会サポート

こうべ動物共生センターにおいて開催される際にはサポートを行う。当該譲渡会は10月19日（日）に開催予定である。

4. 障害者の自立支援事業

当法人が販売している安全安心な犬用手作りおやつのだんごはNPO法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援（B型）事業所Patch（パッチ）に製造を担当して頂いている。

また、開発より関わって頂き、新商品の開発も共に行っている。2002年にPatchの創設者の方より以下のようなご相談があった。Patchは、障害者の方が製造したものだから、と同情で商品を購入して頂くのではなく、正当な評価のもと、一般の商品と競争出来る商品作りを行うことで、障害者の方々が社会参加出来る作業所を目指している。

そこで、意識の高い飼い主のニーズに合った安全、安心な犬用おやつを販売することが、障害者の方々の自立支援となるのではないかということで、一緒に開発、製造、販売に取り組むこととなった。その後、Patchは製造担当として、品質管理等にも注力され、商品の品質も認められて、今では多くの顧客が定期的に購入をして下さっている。その結果、モデル作業所として認められ、他所からの視察も多い。

また、この事業の推進によって、障害者の方々が仕事に対するやりがいを感じ、当初の目的であった、メンバーの方達の通所費用を賄えるところまで、運営は進んだ。今後もこういった形での自立支援を行っていきたい。

売上を上げることで作業所の適切な事業所運営が可能となり、Patchの皆さんの自立支援となるため、昨年度は新たにふるさと納税返礼品の事業者登録（兵庫県・神戸市）や、当法人への寄附に対する返礼品の発送を行った。また、販売促進のためのキャンペーンをハロウィンとクリスマスのシーズンに行った。さらに、イベント出店時には現金支払い以外にPayPayを導入し、購入しやすい体制を整えた。

今年度は、以下のとおり実施する。イベントへの出店（出展）や新規取引先の拡大等を通して販売網の拡大につなげ、自立支援・社会参加を支えていく。なお、イベントへの出店（出展）においては、商品販売だけでなく障害者の自立支援事業等のPRも行う。（1. 啓発事業（11）情報提供事業でもある）

<新商品の開発>

イベント出店時に寄せられた飼い主のニーズや卸での取引先からの要望等に対応する。

- ・鹿肉を活用した高齢犬でも食べられるおやつを開発する。

<ふるさと納税返礼品>

現在、兵庫県および神戸市に事業者登録しており、メールマガジンやイベント出店等でPRを行う。

<Knotsへのご寄附に対する返礼品（犬用手作りおやつセット）>

プレゼントとして発送を希望する方には配送先を指定していただけるよう対応を行う。

<イベント出店（出展）での販売>（1. 啓発事業（11）情報提供事業でもある）

対面で販売することで、飼い主のニーズを聞き取ることができ、新商品開発の糸口となるのみならず、飼い主と愛犬に係る貴重な情報収集の場となる。現在、下記のイベントに出店（出展）をして

おり、下記の予定以外の参加可能なイベントへの出店（出展）も随時行う。

ブースにおいては、ディスプレイや来場者への声掛けを工夫したり、犬用おやつの販売数を増やす等して昨年度の1.5倍の売上を目指す。

飼い主の方々や様々な犬達から直接情報収集できる貴重な機会であり、今後の事業に活かせる方策を工夫する。

- ・国際盲導犬デー（主催：社会福祉法人兵庫盲導犬協会）

令和7年4月29日（火・祝）湊川公園

- ・動物感謝デー（主催：公益社団法人日本獣医師会）

令和7年11月15日（土）上野恩賜公園

- ・こうべ福祉健康フェア（主催：神戸市／公益財団法人こうべ市民福祉振興協会／社会福祉法人神戸市社会福祉協議会／ふれあいのまちKOBÉ・愛の輪運動推進委員会／神戸市教育委員会／一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団）

開催日未定

5. ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業

1. 啓発事業（5）ずっと一緒に居ようプロジェクトの一環として行う被災した被害者に対するペット可物件への入居費用の助成は、毎年計画的に実施するものではなく、発生した災害が激甚災害として指定された時に緊急的に実施する。ペットと一緒に生活できる環境を取り戻すことで被災者の自立を支援し、被災者が立ち直っていく姿を周囲の方々にも見て頂き、ペットと一緒に暮らすことの大切さを理解して頂くことで啓発にもなる。

《助成事業の概要》

事業の目的：当法人は、人と動物のより良い共生の推進を図り、人そして動物の福祉の向上に資することを目的としており、この事業は、被災の程度、ペットの種類に関わらず、家族の一員であるペットと一緒に暮らすことができるように、入居する際の費用を支援するために行う。

寄附金の募集：当法人のウェブサイト等で寄附金募集を周知するが、寄附金の使途について、ペット可物件への入居費用に充てることを趣旨とし、併せて支援金の振込手数料等への充当、残金の処理方法についても明示した上、寄附金を募集する。

支給額と残金処理方法：支給額は、集まった寄附金の範囲内で、理事会において決定するが、寄附金の残金が生じないように努めるとともに、やむを得ず残金が生じた場合は、その後の別の激甚災害の支援金助成事業の原資とし、それ以降も同様の処理をし、目的外使用はできないものとする。

確認体制：当法人アドバイザーボードメンバーの内2名が、必要書類等を確認する。この確認結果に基づいて、理事会が支給の可否を決定し、その結果を申請者及び宅建業者に通知する。

令和6年1月1日発災の能登半島地震が激甚災害と指定されたことを受け、「ずっと一緒に居ようプロジェクト 令和6年能登半島地震『被災者のペット可物件入居支援金』助成事業」として本事業を令和6年1月17日より開始した。

今年度は継続して追加の寄附金を募り、以下の方策を中心に被災者のペット可物件入居支援を実施する。（1. 啓発事業（5）ずっと一緒に居ようプロジェクトでもある）

- ・ウェブサイトにおいて助成申込状況や追加の寄附金に関する情報を随時更新する。
- ・メールマガジンの配信により、ウェブサイト掲載の支援金助成事業の最新の情報を提供する。

- ・関係するメディアや顧問弁護士等の災害支援の活動を通じて、支援を必要とされる方への情報提供網の拡充を行う。
- ・出店するイベントにおいて、『被災者のペット可物件入居支援金』助成事業の広報を行い、支援を必要とする被災者への情報拡充や追加の寄附金への協力を呼びかける。

6. SDGs推進事業—One World, One Life—

誰一人取り残さない社会を目指す国連の SDGs の17の目標を達成するため、日本でも政府が“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する指針を掲げている。

当法人の事業において、SDGsの17の目標の多くに貢献してきており、特にゴール17の「パートナーシップで目標を達成しよう」というのは、自治体や企業・他団体との連携を図り課題を解決してきた Knots の在り方そのものである。

人も動物も幸せな社会に向けての事業を継続してきた中で、「人もまた生き物である」という視点から生まれた、「リぶ・らぶ・あにまらず ICAC KOBE 2015 第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」のテーマ「One World, One Life—ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく—」を、当法人設立 20 周年を迎えての次のステップへのテーマとした。この概念はSDGsと目標を同じくするものであり、今後もステークホルダーとして更なる貢献ができるよう、行政機関や他団体・企業と連携を図り、SDGsを推進する事業を行う。

SDGsの推進のために必要な様々な情報収集と研究を行い、セミナーや体験活動等の実施を通して人材育成・教育の機会を設ける。希望すれば誰もが学べるよう、リモートでの参加や実施した記録・資料を可能な限りウェブサイトで公開する等、幅広い情報提供を行い、フェスティバル等のイベントにおいても、情報発信を行う。また、SDGsを推進し、誰一人取り残さない社会の実現の為に、必要な相談業務を行い、支援を必要とする人が必要な支援を受けられるよう関係機関と連携を図る。

今年度は、以下の3つの事業を行う。

1) 兵庫県多可町でのSDGs事業推進

令和3年度6月に多可町と締結した包括連携協定に基づき、SDGs普及展開業務を進めてきた。内閣府の令和4年度SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業選定の提案書作成のサポートを行い、多可町は令和4年度SDGs未来都市に選定された。担当課である企画秘書課においては、「SDGs登録制度」の普及、住民参加型のオープンイノベーションプラットフォーム「クリアグリーンTAKA」の立ち上げ、講演会・勉強会等の開催、共創のまちづくり支援事業補助を行う予定であり、令和5年度には「クリアグリーンTAKA」発足式が執り行われ、多可町SDGs登録制度に登録している事業者・個人による懇談会が実施された。令和6年度は多可町ふるさとの夏まつり花火に協賛した。

今年度は引き続き必要に応じて支援を行う。

2) こうべ動物共生センター管理運営業務

神戸市においては、令和3年度に神戸市北区のしあわせの村に開設された「こうべ動物共生センター」の管理運営業務を行う。令和5年度こうべ動物共生センター管理運営業務委託公募型プロポーザ

ルで当法人が継続して受託することとなった。

人と動物相互の科学的影響を明らかにし、広く市民生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、国内外の専門家による「セラピー研究フィールド」を構築しているが、令和6年度には新たに谷口優先生（国立研究開発法人国立環境研究所主任研究員）にセラピー研究フィールドアドバイザーに就任していただいた。

犬のしつけ方教室に係るプログラムについては、有識者・経験者で「適正飼養アドバイザー会議」を設置し、会議の中で実施する開催教室について協議する。

神戸市の仕様書に基づき、以下の事業を実施する（3月4日段階では正式な仕様書が提示されていないため、令和6年度の実績による提案内容とする）。

●アニマルセラピー事業

- ・アニマルセラピーに関する講演会
- ・「わんちゃん読書会」
- ・「出張！わんちゃん読書会」（「わんちゃん読書会」アウトリーチ開催）
- ・「犬猫とのふれあい体験（高齢者向け）」
- ・「わんちゃんお出かけセラピー」
- ・「教えて！介助犬」

●みんなで参加しよう！

- ・「ペットも一緒に避難マップ」
- ・「防災わんにゃんフェスティバル」
- ・「獣医師の世界を体験しよう！」

プログラム監修：堀尾政博先生（獣医師・獣医学博士／公益社団法人Knots監事）

- ・「犬とともにだちになろう For Kids」
- ・「VRで体験！犬猫とのくらし」
- ・「体験型ワークショップ」

張り子作り、犬猫のおもちゃ作りなど、実際に体験できるプログラムを実施する。

●ペットと参加しよう！

- ・「老犬と楽しく暮らすためのセミナー」
- ・「お散歩診断」
- ・「ドッグスポーツにチャレンジ」
- ・「子犬のしつけ方相談会」
- ・「来所相談」（月に2回の事前予約制・飼い方やしつけ方の相談）

●じっくり勉強してみよう！

- ・「犬猫を飼う前に知っておきたいこと」
- ・「猫についてもっと知ろう」
- ・「いきものといっしょ」
- ・「いのちの教育」プログラム
- ・サマースクール

●来場者促進事業

- ・うちの子写真・絵画展

3) 「ペットと一緒にSDGs！」

SDGsをより一般化する試み―「人とペットとの暮らし」の視点を活かしたSDGsの取り組みを紹介・推進していく―により、カーボンニュートラルの取り組みやペットツーリズム等を通してSDGs推進に貢献する。その視点を広めるため、ウェブサイト上等で情報発信を行い、呼びかけ・啓発を通してペットとの暮らしが人の健康に寄与するものであることも広く伝えていく。

今年度は、Knots設立25周年記念事業としてのシンポジウムを企画・開催する予定である。

【その他の連携促進】

IAHAIO

Knots は IAHAIO メンバーになっている。IAHAIO は、人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国の Delta Society（現 PetPartners）、フランスの afirac、イギリスの SCAS が中心となって 1992 年に設立した。IAHAIO の使命は、人と動物の相互作用（Human Animal Interaction=HAI）の分野を進歩させるために、国際的な指導力を提供する。

令和6年度は、「人と動物の相互作用の魅力～日本ならではのウェルビーイングをめざして～」というテーマで初の日本時間・日本語でのウェビナーが開催され、当法人代表理事が講師のひとりとして登壇した。このように日本での展開のニーズが高まっているため、今後も連携促進を強化していく。